

Title	Porous glass ODS high-performance liquid chromatography of estrone, 17- β -estradiol and estriol
Sub Title	
Author	小股, 泰子(Komata, Yasuko) 金子, 明子(Kaneko, Akiko) 藤江, 忠雄(Fujie, Tadao) 高井, 信治(Takai, Nobuharu)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1987
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.32 (1987.) ,p.147- 147
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000032-0167

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ローンしたところ、*B. subtilis*, *E. coil* 内でもともに発現し、それぞれに BS 耐性の形質を付与した。以下 *E. coil* の系を用いて、この耐性が菌体内の BS deaminase 活性によるものであることを確認したうえで、構造遺伝子 *bsr* の構造解析を試みた。また、BS の持つ広い抗菌スペクトルから、本遺伝子をベクターマーカーとして利用する目的で、形質転換活性及び、耐性獲得の定量的解析を行った。

1) 遠藤他, 日本薬学会第 106 年会講演要旨集 p. 288 (1986)

* 理研

** 菱化生科研

Porous Glass ODS High-Performance Liquid Chromatography of Estrone, 17- β -Estradiol and Estriol

Yasuko KOMATA, Akiko KANEKO, Tadao FUJIE and Nobuharu TAKAI

小股泰子, 金子明子, 藤江忠雄, 高井信治*

[23rd International Symposium Advances in Chromatography (1986年10月, 千葉) で発表]

Reversed phase high-performance liquid chromatography (HPLC) with a home-made porous glass ODS column was used to assay Estrone, 17- β -Estradiol and Estriol. Using acetonitrile-water (30/70) as a mobile phase at a flow rate of 1 ml/min, the three steroids were analysed in 5 min. This demonstrates the considerable advantage of the present porous glass column in speed over conventional silica ODS columns.

* Institute of industrial Science, University of Tokyo.

Thiamine Disulfide の脂肪酸との複合体形成について

小股泰子, 中村典子, 宮崎早苗, 金子明子, 藤江忠雄, 上田文雄*, 浦野四郎**

[日本薬学会 第 107 年会 (1987年 4 月, 京都) で発表]

〔目的〕 Thiamine disulfide (TDS) は生体内で Thiamine に再生された後、リン酸化されて補酵素としての作用を開始するといわれている。上田らは、TDS が炭素数の異なる脂肪酸 (FA) とジクロロエタン中で複合体を形成することを報告し、この複合体の製剤面での有効性を示唆している。これらの複合体は、物理化学的相互作用により TDS 1 モルに対し FA 6 モルから生成することが元素分析等から明らかにされている。しかし、その生成メカニズムに関しては明らかにされていない。我々はこの点に着目し、その機構を明らかにする目的で TDS と FA の会合定数、また、TDS および FA の会合に関与すると思われる部位の検討を行った。

〔方法〕 TDS のメタノール溶液に種々の飽和、不飽和 FA を添加して蛍光強度 (Ex ; 368